

No.2824

論文集『日中戦争の国際共同研究 日中終戦と戦後アジアへの展望』

津田塾大学学芸学部国際関係学科 教授

中村元哉

本助成を得て、『日中戦争の国際共同研究 日中終戦と戦後アジアへの展望』（慶應義塾大学出版会、2017年）を公刊した。この論文集は、「日中戦争とアジア」をテーマとした国際会議（2015年12月、台北）の成果である。この刊行の目的は、若手研究者に対する研究支援と国際的発信力の強化であり、以下のとおり、国内外の若手研究者による優秀論文5本を含めた全15本から構成される。参加したのは、日本、中国、台湾、韓国、イギリスの研究者であり、日中戦争が日本と中国と東アジアの戦後にどのような影響を与えたのかを重点的に考察した。日中戦争が20世紀後半から今日のアジア世界にどのようなインパクトを与えたのかを知る上で、必読書になったと考える。

波多野澄雄・久保亨・中村元哉編『日中戦争の国際共同研究 日中終戦と戦後アジアへの展望』慶應義塾大学出版会、2017年

【目次】

総論——日中終戦と戦後アジアへの展望：編者

第1部 日中終戦と戦後構想

第1章 太平洋戦争末期における日本の対中和平構想：戸部良一

第2章 戦争末期の日中戦争と日ソ関係——「日中ソ」提携構想をめぐる：波多野澄雄

第3章 韓国臨時政府の本国帰還問題に対する中国国民政府の対応——終戦前後における東北アジア国際秩序再構築の一側面：裴京漢（丸田孝志訳）

第4章 国共内戦下の戦後日中提携——支那派遣軍と国民政府：加藤聖文

第5章 台湾における日本人墓地および遺骨の処理問題：浜井和史

第2部 中国の変動

第6章 戦後中国における憲政への移行と警管区制：吉見崇

第7章 戦後中国の税政と工商同業公会——上海の貨物税制度を素材に：金子肇

第8章 1940—50年代の中国経済と日中関係：久保亨

第9章 国民党政権と南京・重慶『中央日報』——戦時から戦後にかけての自立化傾向：中村元哉

第10章 リベラル派知識人の国際情勢観——1945年前後を中心に：水羽信男

第11章 錯綜する願い——国民政府教育部に寄せられた学生の手紙から：アーロン・W・ムーア（李仁哲訳）

第3部 東南アジアの変動

第12章 戦争・民族・国家——抗戦前後における雲南土司の苦境と選択 1942—

1952：呉啓訥（藤井元博訳）

第13章 重慶国民政府のビルマ国境政策と軍事占領 1942－1945：藤井元博

第14章 日中終戦前後の国民政府と東南アジア——重慶当局の戦後ラオスに対する構想および実践を中心に：王文隆（柳英武訳）

特論——南京大虐殺と難民の宗教生活：張連紅（土肥歩訳）

あとがき：波多野澄雄・久保亨・中村元哉

編者・執筆者紹介／訳者紹介

索引